

雛人形修復

盛岡市先人記念館蔵 木津屋伝来雛人形



修理前



修理後

盛岡市先人記念館:
<http://www.mfca.jp/institution/senjin/index.html>
昨年3月には雛人形特別展が開催されました。
盛岡にお越しの際は、ぜひお運びください。

製作所感

雛人形の修理についてはさまざまな考え方がありますが、一点一点、文化財としての価値と、人形が持つ心情的背景を大切に、より良い方法を探します。これからも所蔵者の方とともに十分に検討を重ねて進めていきたいと考えています。最後にご協力とご理解をいただきました先人記念館の担当者様に感謝の気持ちを表したいと思います。

—京都科学・和久田優子—



木津屋伝来 雛人形
木津屋は、盛岡市にある岩手県有形文化財に指定された三百七十年あまり続くオフィス機器を取り扱う老舗です。一六三八年、初代となる池野藤兵衛が、朝鮮国交文書改ざん事件で盛岡に預けられていた方長老を訪ねて下り、藩主の庇護と師の教えを受けて萬小間物「木津屋」を創業しました。名物茶入れなど優れた美術品、工芸品が数多く伝わっています。今回は盛岡市先人記念館に寄贈され江戸時代のお嫁入り道具の一つとして大切に保管されてきた雛人形を当社の熟練技術者の手で修復いたしました。

修理そのものが脆弱化している本体を傷めないように、使用する膠(接着剤)の濃度には細心の注意を払いました。部分植毛の接着剤はヤンスは一回限りなので、残存する部分に違和感なくなじむよう、スガ糸を加工する過程は試行錯誤の繰り返しでした。剥落箇所は膠で剥落止めを行い、欠損部には膠と胡粉で充填しました。雛人形の顔の陶器のような光沢は磨いて出しているのですが、充填箇所だけを磨くために先の細いメノウ棒を使用しました。

女雛は頭髪の経年劣化が進んでいたところ、衝撃が加わり、頭髪が大きく損傷していました。また、従者人形は乾燥によって胡粉の肌亀裂が入り、剥落がおきていました。今回の修理では、残存する頭髪や胡粉層を極力生かすつつ、人形が持っている雰囲気損なわないような修復を目指しました。

ニューズレター

文化財の保存と複製

VOL. 7 / July

2009年7月

お問合せは075-605-2540
京都科学・造形システム部
担当:小林泰弘まで

修復の概要

損傷状態

女雛…一体…頭髪劣化損傷、右親指割損。
従者人形…八体…胡粉層の剥落、頭髪劣化損傷。

修理内容

女雛…頭髪…スガ糸による部分植毛、膠で接着
親指…割損した親指を合成樹脂(エポキシ系)で接着、膠と胡粉による充填整形。
従者人形…剥落…膠による剥落止め、膠、胡粉、微量の顔料による充填整形、および補彩。頭髪…スガ糸による部分植毛、膠で接着

